社会福祉法人埼玉育児院の取り組み

将来構想策定委員会 and 分科会

埼玉育児院では、社会的養護の環境が大きく変わる中で、児童養護施設・母子生活支援施設として果たすべき役割を見つめ直す必要が出てきています。こうした流れを受け、法人として多機能化・高機能化に向けた将来構想を、2年間の計画で進めているところです。

この取り組みには、現場の意識をそろえ、職員みんなで考えていくことが欠かせません。そのため昨年夏、理事も含めた5つの分科会を立ち上げ、希望する職員が参加しながら検討を重ねてきました。

今回は、それぞれの分科会の取り組みと現在の進捗をご報告いたします。

第1分科会：働きやすい環境づくり

理事・母子・養護（調理・基幹）のメンバーで、「働きやすい職場」をテーマに、子ども・利用者を中心に据えながら、ワークライフバランスや心理的安全性について話し合っています。

昨年度は、現状の共有や“働きやすさ”に関する意見交換を中心に進めてきました。

今年度は、具体的に取り組めることや施設として提案できる内容について検討を深めていきます。

第2分科会：討議システム検討

理事2名、母子、養護副施設長の4名で、「会議システムの合理的な運用」をテーマに、現行の会議体制の整備を進めています。

会議における「活発な意見交換」と「納得した意思決定」をポイントに、合理的な会議運営とその仕組みについて検討してきました。

今後は、会議を“組織の在り様”として捉え、会議の目的や権限などを整理するとともに、研修制度や専門職育成についても議論を進めていきます。

第3分科会：施設における暮らしづくり

養護の施設長・基幹、母子の職員など6名で構成されています。

法人理念を全職員が意識して日々の支援に取り組めるよう、理念の内容をより詳しく整理し、現場で共有しやすい形にまとめています。養育理念・養育方針を中心にした職員ハンドブックの作成を進めています。子どもと母の支援をするときに、参考にしてほしい内容をまとめていく予定です。

第4分科会：地域の中の支援組織づくり

副理事長、母子施設長、養護基幹主任の3名による分科会で、中長期計画の提案をゴールとしています。

法人内で行われている事業を統合し、「地域支援事業部（仮）」の設立を検討しながら、新たな社会資源の構築に向けた具体的なイメージ案をまとめています。

今後は、昨年に引き続き法人理念のブラッシュアップと地域福祉を実践している団体や施設への見学も予定しています。

第5分科会：財政運用の在り方

将来構想に向けた資金の使い方は、各分科会の方向性と深く関わるため、今後連携しながら検討を進めていく予定です。

一方で、現在の大きな課題である職員不足に対しては、採用だけでなく「長く働き続けてもらう工夫」が必要と考えています。

職員の負担を軽減し、その分サービス向上につなげられるよう、AIの活用や業務のデジタル化についても検討しています。

策定委員会

理事長を含む各分科会のメンバーが集まり、分科会の進捗や課題を共有しながら、全体としての議論を行っています。

各分科会の状況が共有されることで、得られた視点をそれぞれの分科会に持ち帰り、議論の深まりにつなげています。

今後は、各分科会での検討がより具体化し、策定委員会に集約されていく見込みです。